

○議長（明和善一郎君） 6番 川崎和夫君。

○6番（川崎和夫君） おはようございます。

竹島議員が防災のことで質問されて、ちょっとかぶる面もありますが、一応今回の質問については、地区の参加された住民と話し合っってつくり上げた質問です。

当日の9月6日の防災訓練に参加した段階で、やはり多々問題があったかなというふうに思いますので、その点を含めてお聞きください。

舟橋村は幸いにして非常に恵まれた環境であります。恵まれた環境にあるために、かえって災害に対する危機意識が薄れているのではなかろうかと思ひます。また、仮に災害が起こっても、自分には関係はなく、別な場所での出来事として捉えがちになっているのではないかという感じがします。

最近の気象報道では、よく50年あるいは100年に一度の異常気象であると耳にします。災害は忘れたころにやってくるとよく言ひますが、時間の経過とともに人の記憶も風化していきやすいものであります。

防災訓練をなぜするのか、なぜしなければならぬのか。私たちにできることは、災害に備えての事前の準備と防災意識をいかに高めていくかが大事になってくるわけです。

規模の大きな防災訓練の実施は、私たちの防災体制を見直し、防災を見直す絶好の機会であるというふうに思ひております。せっきやく貴重な人と時間をかけて訓練をするわけですから、実りの多い訓練であってほしいと願ひうわけです。

訓練の大きな目的は、訓練を通じていかに住民の防災意識の向上に努めるかにあると思ひます。

去る9月6日に実施されました富山県総合防災訓練はどうであったのか。防災関連の質問については、先ほど村長も述べられましたが、平成22年9月あるいは12月の定例会でも質問しました。

今回の訓練に参加し感じた点を皆さんの意見として改めて質問したいと思ひます。

今回の訓練に当たっては、当然のこととして舟橋村防災計画に基づいて計画されたと思うが、訓練に参加された団体との連携——いわゆる役割分担ですね——及び情報伝達に問題がなかったのか、災害対策本部の組織図上の点検等はなされたのかどうか、自治会（自主防災会）への情報伝達のあり方についてうまくいったのか、問題はなかったのかお聞きします。

今回の情報伝達としては、携帯電話、eネットふなはし、携帯メールの緊急メールが

ありますが、伝わり方についてどのように評価されているのか。災害時における情報伝達と J - A L E R T の効果の検証と課題についてはどうであったのか。

ことしの自治会要望として、舟橋地区、国重地区より、放送について聞き取りにくいために対処してほしいという自治会要望が出ておりましたが、実際訓練に参加して公民館前で放送を聞きましたが、内容については聞こえづらく、何を案内しているのか聞き取りにくい状況であった。また、窓を閉めた状態であっては聞きづらく、話の中身についてはわからないものであった。このような訓練の機会を利用してモニタリングをすべきではなかったのか。

次に、各地区における要援護者の安否確認について、今回は便宜上自治会長となっているが、民生委員あるいはボランティアとの関連もあり、もっと実態に沿った訓練の内容にすべきではなかったのか。それと同時に、個人情報の管理と取り扱いについてはきりさせてほしい。

今回の訓練では、二次避難して学校に到着し、名簿を提出した時点で想定 of 訓練は終了となっているが、このような大きな訓練を利用しての災害対策本部の課題を洗い出すよい機会ではなかったのか。

今回の訓練で二次避難の引率者から、避難経路、道路、建造物、避難した人員、年齢構成など、二次避難時の確認すべき情報が多々あるはずなのに、報告や点検については一切求められず、せっかくの機会を利用してもっと危機感を持った実践的な訓練にすべきではなかったのかというふうに思います。なぜ二次避難引率者からの報告の点検をしなかったのか不思議でなりません。

参加した人からすると、想定は単なる人集めの口実でしかなく、非常に緊張感の欠ける不満の残るものであったというふうに思います。

富山県総合防災訓練が終了した後、参加した住民にアンケートをとるわけでもなく、また自治会をはじめとして参加団体との意見の集約をするわけでもなく、理解に苦しむわけです。

訓練についてのまとめとして、問題点、課題を整理して、自治会、社会福祉協議会、消防関係、赤十字奉仕団等と問題点を共有し、次の訓練時のために備えていくことが大事になってくるのではないかと。

以上、防災訓練のあり方について質問します。

○議長（明和善一郎君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 6 番川崎議員さんのご質問にお答えします。

9月6日の富山県総合防災訓練において実施した住民避難訓練では、各自治会長さんに災害対策本部との情報伝達窓口の役割を担っていただきました。

災害対策本部では、職員3名が分担して各自治会長さんの携帯電話に連絡し情報伝達を行っております。その他参加団体との情報伝達に関しても、携帯電話を活用いたしました。特段の問題は発生しておりません。

また、訓練当日、午前8時40分に、村長の指示により舟橋村災害対策本部を設置しております。舟橋村地域防災計画に定める組織図に基づき、村長を本部長とした組織により設置、運営訓練を実施しております。

今回の防災訓練においては、住民避難訓練を実施することで住民の皆様が自主的に一次避難所の設置、運営訓練を行うこと、及び二次避難所への避難を行っていただくことで地元地区から二次避難所へのルート確認を行っていただく等、各自が自分の身は自分で守るという自助意識を改めて啓発し、防災意識の普及啓発を図ることが最も重要な目的の一つでありました。

議員ご指摘のとおり、e ネットふなはしや緊急速報メール等も重要な情報伝達方法であると認識しておりますが、今回は時間の限られた訓練でもあり、さきに述べた事情もあることから訓練には至っておりませんのでご理解願います。

また、災害時におけるJ－A L E R Tの検証と課題についてですが、さきの3月議会に竹島議員さんのご質問においても村長が答弁申し上げましたが、J－A L E R Tと連動した村内4カ所のスピーカーからの音声は、風向きや天候、各住宅の仕様やご家庭内の状況等の事情があるため、全てをカバーすることは困難であると考えております。現在整備している情報伝達手段を活用し、安全・安心なまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

また、要援護者の安否確認については、議員ご指摘のとおり、今回、便宜上自治会長さんに確認いただきましたが、本村が作成した災害時要援護者登録台帳は、自治会長さんにお配りしたものと同一ものを各民生委員、児童委員様にもお配りしております。

実際の災害時においては、一次避難所を運営されている自治会長さんと地区担当の民生委員、児童委員さんが連絡を取り合って要援護者の安否を確認することが想定されます。万が一の事態には、各民生委員、児童委員さんに災害対策本部から連絡を入れる場合も出てくるかと思いますが、今回の訓練においては自治会長さんにご連絡をさせてい

ただきましたので、ご理解をいただきたいと思います。

また、民生委員さんにつきましては、国重地区にはいらっしゃいますけれども、各自治会にいらっしゃるわけではございませんので、そのへんもお含み置きいただきたいというふうに思います。

議員ご指摘のとおり、二次避難所到着時に避難経路の確認や道路、構造物等の報告、また避難してきた方の人数や年齢構成等について、本部に報告を受ければより実態に即した訓練になったことは事実であります。

道路や建造物等の点検結果報告は、別途、災害対策本部運営訓練の中で職員が訓練を行っておりますが、さきにも述べたとおり、今回の訓練は限られた時間で多数の機関の協力を得て多項目の訓練を同時に実施しております。また、各自治会からの二次避難所到着時間が一時的に集中したこともございます。

万が一の事態には、二次避難所到着時に避難経路における状況の聞き取りや避難した方の状況報告を求めることになるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

最後に、意見集約につきましては、前回、平成22年に実施した防災訓練の際は、各参加機関の代表者にご出席をいただき反省会を開催しましたが、参加機関ごとに参加訓練項目が異なることから、皆様に一同に集合していただく反省会は今回は実施せず、訓練後に聞き取り調査を行い当方で総括をしたところでございます。

竹島議員さんのご質問に対する村長答弁にありますとおり、今回の防災訓練では、災害時の自分の身は自分で守るという自助意識を改めて啓発し、実際行動に移すことができたことと総括しておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げまして答弁いたします。

○議長（明和善一郎君） 川崎和夫君。

○6番（川崎和夫君） 今回の質問の一番大きい問題は、確かに住民の避難の仕方があったかと思うんですが、僕たちが今聞きたいのは、行政体としての防災訓練としての位置づけというのはあったのかどうか。これが全然見えてこないんですよ。あくまでも住民のためにやっているというふうに言われるんですが、じゃ、それをどういうふうな形で情報集めしているかということ、聞き取りでやったと。そういうふうな危機管理だけでいいのかどうか。やはり先ほど竹島議員も言われたように、この訓練が消化のための訓練であって、本当に住民のためを考えた訓練であったのか、ちょっとそのへんがわからないんですよ。

答弁をお願いします。

○議長（明和善一郎君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 川崎議員さんの再質問にお答えいたします。

当然、時間をかけて、多少の費用もかけまして実施しております。当然、住民の防災意識の向上ということを目的に実施したところでございます。

確かに、議員ご指摘のとおり、多少緊張感に欠けたところもあったのは否めないと思います。これは訓練であるがゆえに、そういうこともあるのだろうと。ただ、そこを向上していかなければいけないんだらうなというふうに今考えております。

川崎議員のご指摘、ご指導を今後の防災訓練の参考にさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたしまして、答弁とさせていただきます。